

いろいろな標識を身につけており、各標識ごとに、それぞれの値をとっているわけです。

いま、わたしたちが、この高校一年生男子の定量的な標識（変量）の一つである身長について、それが全体として、どんな特徴や傾向を示しているのかを知りたいときには、このカードに記入されている身長の測定値を全部集めて、これを整理し、度数分布表や度数分布柱状グラフ（ヒストグラム）を作ったり、平均値や標準偏差などを求めたりして、その特徴や傾向をつかもうとします。

ときには、二つの標識、例えば、身長、体重について、各カードに記入されているこれらの測定値を、（身長、体重）のように対にして全部集めて、この二つの標識間の関連の度合いなどを、相関図から読み取ったり、相関係数を求めてつかもうとしたりします。

また、定性的な標識の一つである通学方法について、その実態を知りたいときには、各カードに記入されている通学方法の回答を分類して度数を調べ、汽車：何人何％、バス：何人何％……のように、これを比率で表したりします。

さて、統計とは、このような数字のことをいいます。つまり、統計とは、対象とする集団の、個々の要素が共通して持ついくつかの標識のうち、指定された標識の特徴、傾向などを数字で示したものをいいます。そして、統計をとるとは、このような数字を集めること、求めることを意味し、わたしたちが、統計をとる目的は、対象集団の指定された標識の特徴、傾向をつかむことにあります。

ここで、一つ注意しておかなければならないことがあります。それは、集団と標識の関係をよく考えて統計をとらないと、無意味な統計を求めてしまうことがある、ということです。

例えば、昭和〇年〇月〇日現在の、F市の高校一年生全体を対象集団とみたとき、身長、体重、スポーツテストなどの標識は、男女によって質的に異なるものですから、これらの標識に関する統計は、男女別にとるべきです。しかし、高校入試の成績、通学方法などの標識に関する統計は、男女別にしなくても、